



# 志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和4年度12月号

令和4年11月30日(水)

志木市立志木第二中学校

志木市館 1-3-1

TEL:048-473-2379

## 音楽会にみる生徒たちの自負と小中一貫教育の力

校長 三杉 紀文

吹き抜ける風がますます冷たくなってきました。しかし一方で、透き通った青空を見上げると心地よさを感じられる季節でもあります。

さて、11月は第50回という節目の音楽祭が行われました。合唱は、発達段階に応じて成長が大きいことから、特に下級生が上級生の合唱を見て聴くことは、今後の目標と見通しを獲得するなど非常に学びが大きいと考えています。この点を優先して、保護者や地域の皆様には、当日の動画配信での視聴にご理解・ご協力をいただきながら、生徒については今年度は3年ぶりに3学年同席しての音楽祭開催を予定していました。しかし、音楽祭実施予定の週になって感染拡大の状況が見られたため、止む無く2年生の実施は翌週に延期。さらに2年生は各学級の欠席状況を鑑みて審査発表なしでの実施に至りました。それでも初めて本校の音楽祭を見て聴いた私にはいくつも驚きがありました。

まず音楽祭に向けての取組です。各クラスとも課題曲と自由曲の2曲を仕上げるのは容易なことではありません。ただでさえマスクをしたまま歌うなど、コロナ禍での制限付きです。そこで初期の練習では、曲を聴いて頭の中で歌うという発声を伴わない練習が行われました。声を出さなくとも、曲をしっかり聞いて頭の中で歌うことで、正確に歌えるようになっていくというのは驚きでした。そして特に10月の後半は、音楽の授業だけでなく、昼休み、放課後も各クラスでそれぞれ練習が行われました。それぞれ20分程度の練習ですが、実行委員の生徒などを中心にそれぞれによく工夫をして練習しており、その集中ぶりにも驚かされました。生徒たちにはそれぞれの取組に対する自負を感じさせられました。

そして、音楽祭当日。開会式で校歌を聴いた時、すでに驚きでした。考えてみれば、私は今年度、本校に着任して以来、学年集団以上の人数の生徒が校歌を歌うのを初めて聴くことができました。それだけ生徒たちも集まって歌う機会がほとんどなかったわけですが、それを感じさせない堂々としたすばらしい歌声でした。その後の各学年、学級の合唱は、どれも予想以上の質の高さで、私にはそれぞれ1つ上の学年の生徒が歌っているように聴こえました。埼玉県音楽指導をリードされる審査員の先生方も驚かれ、大変お褒めの言葉をいただきました。

音楽担当の鈴木教諭にその発声の質の高さの秘密を聞くと、鈴木教諭は小中一貫教育の一環として小学校でも音楽の授業をしてきており、この小学校段階からの一貫した指導が成果につながっている実感があるとのことでした。これを聞いて私も志木二中学区で推進している小中一貫教育の成果の一端を改めて実感しています。小中一貫教育には、こうした中学校段階の視点だけでは成し得ない成果の可能性を感じており、今後もその推進に力を入れてまいります。